

冬鳥の観察

松川 裕（四街道市）

日 時：2018 年 12 月 16 日（日）9:30～12:00

参加者：42 名（うち子ども 11 名）

担当指導員：坂本文雄、谷 英男、阪上津留美、松川 裕、伊藤道男（事務局）

成田市環境計画課 5 名

坂田ヶ池総合公園は J R 成田線下総松崎駅から北に 1 km の場所にあり、坂田ヶ池の周囲を囲む約 17ha の広大な公園で、「房総風土記の丘」、「房総のむら」と隣接しています。数多くの古墳群がある房総風土記の丘や房総の村エリアは樹木が多く里山環境の野鳥が多いですが、坂田ヶ池総合公園は小さい野鳥のほか、池にやってくるカモなどの水鳥を多く観察できます。この日は薄曇りの天気でしたが、参加者は 42 名（うち子ども 11 名）と探鳥会としては大勢の方が集まりました。多数の参加者に対応するため、谷、坂本、阪上・松川の 3 班体制にし、子ども連れの方は主に阪上・松川班に入って頂きました。

ここは印旛沼と違って歩道から鳥までの距離が短く、また主な観察対象が主に大きい「カモ」なので、双眼鏡が威力を発揮できる環境です。

事前に双眼鏡を 20 台用意し、双眼鏡の使い方の講習をしました。

また、渡り鳥と留鳥、旅鳥の話、ここに来るカモはカルガモを除いて遠くシベリア方面から日本に渡ってくること、渡ってきた直後はオス、メスがほとんど同じような地味な羽の色をしているが、繁殖期になるとオスの羽の色は綺麗になり、1 羽のメスの周りを 5～6 羽のオスが取り囲み自分のチャームポイントをメスにアピールすること（ディスプレイ）、結婚の決定権はメスが完全に握っていることなどを説明しました。カモは日本では結婚の相手探しをして春にシベリアに帰り卵を産むことや、潜らないカモ、潜るカモの違いなどを 実物を使って説明をしました。

また自然観察に関心をもってもらうため、身近な鳥である、ハシブトガラス、ハシボソガラスの見分け方、鳴き声、歩き方の違いやヒヨドリの飛び方の特徴などを説明しました。

参加の皆さんは、双眼鏡の使い方を勉強したためか、実に興味深そうに、集中して鳥を観察していました。

今回は残念ながら見られませんが、時々オシドリがやってくるので、事前に用意をした「オシドリ クイズ」をしながら振り返りを行いました。

